

佐賀新聞 2011(平成23)年12月2日(金)

剣禅書 の達人

山岡鉄舟展

「先生ニ於テハ戦ヲ何途迄モ望マレ、人ヲ殺スヲ專一トシラカ」(山岡鉄太郎「慶応戊辰三月駿府大総督府ニ於テ西郷隆盛氏ト談判筆記」)以下出典同じ。

新政府軍による「江戸城総攻撃」が目前に迫った1868(慶応4)年3月9日、山岡鉄太郎(鉄舟)は徳川慶喜の使者として敵中の駿府(静岡)に潜入し、松崎屋源兵衛宅で東征大総督府下参謀西郷隆盛(南洲)と面談した。冒頭の一文は、その際に鉄舟が西郷に投げかけた渾身の一言だ。

西郷は「唯進撃ヲ好ムニアラズ、恭順ノ実効サヘ立バ寛典ノ御所置アラン」と応え、東征大総督(有栖川宮熾仁親王)に鉄舟談判の内容を報告した。戻っ

県立美術館学芸課係長

浦川 和也

セ

た西郷は、鉄舟に5カ条の条件を示した。

- 一、城ヲ明ケ渡ス事
- 一、城中ノ人数ヲ向島ヘ移ス事
- 一、兵器ヲ渡ス事
- 一、軍艦ヲ渡ス事
- 一、徳川慶喜ヲ備前ニ預クル事

この5条件を旧幕府方が実行すれば、寛大な処置をすることだ。

鉄舟は、慶喜の備前(岡山藩池田家)へのお預けの条件に猛反発し、「詰ル処兵端ヲ開キ、空シク数万ノ生命ヲ絶ツ。是王師ノナストコロニアラス。サスレバ先生ハ只ノ人殺ナルベシと言フ。もし、島津公が誤って朝敵となり、自分と同じ立場となつたら、あなたならどうするのかと西郷に詰め寄った。

遂に西郷は、「先生ノ説尤モ然リ」と言い、前の4カ条受諾をもって交渉は成立した。

命も名も官位も金も要らぬ男



1868年当時の山岡鉄舟の肖像写真(福井市立郷土歴史博物館所蔵)

この西郷・山岡会談の後、3月13日、14日の西郷と旧幕府陸軍総裁勝義邦(海舟)との会談で、「江戸無血開城」が正式に決定した。

実は、この年の1月に起こっていた鳥羽・伏見の戦いの結果、朝敵となった徳川慶喜は、2月には事態收拾を勝海舟らに任し、上野の寛永寺大慈院で

この西郷・山岡会談の後、3月13日、14日の西郷と旧幕府陸軍総裁勝義邦(海舟)との会談で、「江戸無血開城」が正式に決定した。

勝は、慶喜の恭順の意を新政府軍に伝えるべく、まず慶喜側近の幕臣高橋精一(泥舟)を使者としようとしたが、慶喜が反対し、高橋の推薦でその義弟である鉄舟が使者となった。

鉄舟は、まず慶喜と面談して命懸けの談判であった。

明治維新史の中で、西郷・勝会談の前に実質的な交渉を行った鉄舟の功績はそれほど知られていないが、維新後、西郷や岩倉員視らは鉄舟の働きを高く評価している。

西郷南洲遺訓に「命もいらす、名もいらす、官位も金もいらぬ人は、仕末に困るもの也」とある。これは元々西郷が鉄舟を評した言葉として勝に語ったものだといふ。この後に西郷は「此の始末に困る人ならば、艱難をともにして国家の大業は成し得られぬなり」と続けた。

山岡鉄舟の言葉には、西郷をも動かす「力」があった。

◆メモ◆

「山岡鉄舟展」は県立美術館で8日から1月15日まで。12、19、26、29、31日と1月10日は休館。観覧料は大人600円(前売り500円)、大学生300円(同200円)、高校生以下無料。県立美術館と全生庵、佐賀新聞社でつくる実行委員会主催。問い合わせは県立美術館、電話0952(2)43947。